



年金総合研究所 ニュースレター

No.	Issopm - Press - A0022
発行日	2016年7月13日
編集	年金総合研究所 広報

第11回年金総合研究所シンポジウムを開催

基礎年金制度発足30年にあたり、基礎年金の水準を含め公的年金制度の将来について考えるべく「公的年金制度の歴史とその展望」と題して第11回シンポジウムをイイノホール&カンファレンスセンターにて厚生労働省等のご後援を得て開催いたしました。

シンポジウムでは日本を代表する4名の有識者の方に人口減少、高齢者雇用、賃金のあり方、医療や介護を含めた幅広い観点から講演して頂きました。

- I 「社会保障制度を将来世代に伝えるために」
慶應義塾長 清家 篤 様
- II 「年金制度の現状と課題」
～基礎年金創設から30年を経て
厚生労働省年金局長 鈴木 俊彦 様
- III 「公的年金制度の残された課題」
元・駐スウェーデン日本国特命全権大使
渡邊 芳樹 様
- IV 「暗い年金将来像」はもうやめよう
元日本経済新聞社 論説委員 渡辺 俊介 様

講演 I

『社会保障制度を将来世代に伝えるために』

慶應義塾長 清家 篤 様

清家様からは、労働経済学の専門家としてのお立場から「社会保障制度を将来世代に伝えるために」と題して、日本が現在抱えている課題と将来見通しを示されるとともに、今後進めていくべき対策につき丁寧かつわかりやすくご講演頂きました。

1. 世界に類をみない高齢化
2. 支える力を強化する
3. 生涯現役社会を目指す
4. 女性の労働力率をたかめるために
5. 社会保障改革の視点
6. 社会的合意形成の必要性



(次頁へ)

講演Ⅱ

『年金制度の現状と課題』 ～基礎年金創設から30年を経て～ 厚生労働省年金局長 鈴木 俊彦 様



鈴木様からは、年金制度の課題を克服する責任者としてのお立場から、60ページ以上の資料に基づき、1. 公的年金制度の現状とこれまでの歩み、2. 年金制度の課題と展望につきご説明頂きました。説明の後、ご自身のお考えとして、「日本の年金制度は、持続性・安定性といった面で、言われているほど悪くない制度である」、「問題は、国民の理解を築くために、社会保障教育等を通じていかに正しい情報をもとに正しい理解を得るかが重要である」、「公的年金のみでなく私的年金および医療・介護等を含めトータルで論じることが大事である」と講演を締めくくられました。

講演Ⅲ

『公的年金制度の残された課題』 元・駐スウェーデン日本国特命全権大使 渡邊 芳樹 様

渡邊様からは、厚生労働省年金局OBおよびスウェーデンの社会保障制度の有識者としてのお立場から、「平成16年改革で出来たこと・出来なかったこと」、「当面の改革課題」、「将来的または本質的課題」につき、スウェーデンでの事例や各種提言を交えてご講演頂きました。



講演Ⅳ

『暗い年金将来像』はもうやめよう 元日本経済新聞社 論説委員 渡辺 俊介 様



渡辺様からは、新聞記者として長年にわたり厚生労働省、社会保障制度をご担当されたお立場から、1. 「年金の財政破たん」と言われるようになった原因は誰が作ったのか？、2. 「年金破綻」「年金不信」はこうして作られた、3. 唯一の救いの道は「出生率」「労働人口増」「経済成長」について述べられ、最後に「100年安心」などの安易で誤解を生むワンフレーズではなく、もっとやさしく、正確に伝える手立てを講じる必要がある」と講演を締めくくられました。

(次頁へ)



お知らせ

シンポジウム講演録を発行予定です

当シンポジウムの全講演内容および全講演資料を講演録として取りまとめて、ご希望される方に配布致します。

発送の準備が整い次第、年金総合研究所ホームページにて、お知らせさせていただきます。

冊子のお申込みは、当研究所ホームページの「お問い合わせ」のページより必要事項をご記入の上、ご連絡ください。

年金総合研究所ホームページ：
<http://www.issopm.or.jp/>



当ニュースレターで今後取上げて欲しいテーマやご要望・ご意見などございましたら、年金総合研究所ホームページのお問い合わせフォームからお知らせください。

お問い合わせ先：<http://www.issopm.or.jp/contact/>